

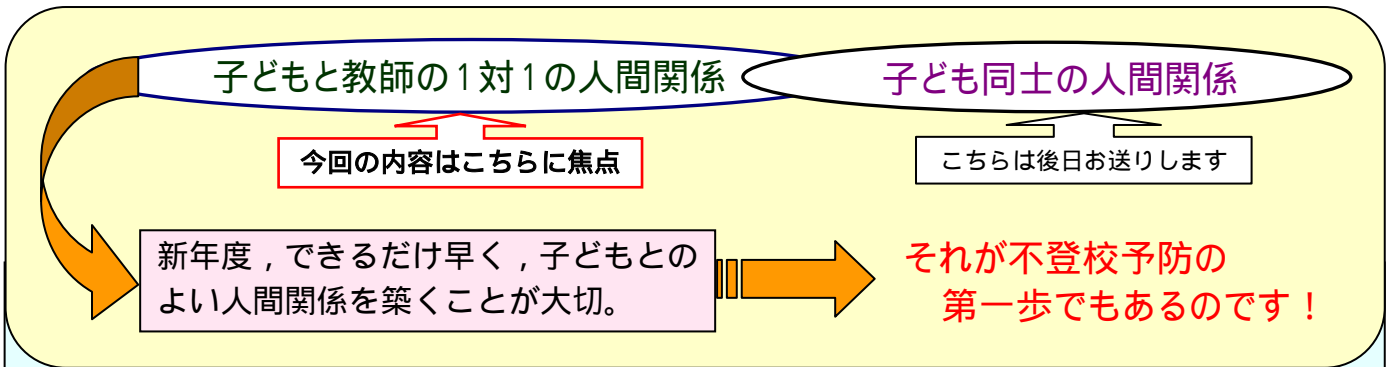
子どもとの人間関係づくりはGWまでが勝負！

今、目の前にいる子どもたちが、ずっと笑顔で登校するためには、何と言っても学級が楽しくて、居心地がよくなっちゃね！さて、あなたの学級経営、今年はどうします？



小学1年担任のA先生	小学3年担任のB先生	小学5年担任のC先生	中学1年担任のD先生	中学3年担任のE先生
元気いっぱい、笑顔が絶えない明るいクラスをつくります！	チャレンジの機会をたくさんつくって、しっかりバックアップします。	全員が学級の主役！一人一人のよい面を引き出し伸ばします。	いじめのない居心地のよいクラスづくりを目指します！	一人一人の生き方探しを、しっかりとサポートします。

これらの基盤となるのは、学級でのよい人間関係です。つまり



不登校の背景は、一人一人異なりますが、一般的には、不登校の準備状態ともいえる何らかの要因と、不登校のきっかけとなる出来事（誘因）の双方によるストレスの和が、その子の“不登校にならずにいられる我慢の限界”を超えてしまったときに、不登校になると考えることができます。

平成15年度の問題行動等調査（文部科学省）によると、本市においては、学業の不振を除く学校生活上の問題が直接のきっかけと思われる不登校児童生徒が、小学生で24人（約23%）、中学生では165人（約36%）という結果が出ています。

子どもとの人間関係を築くために ちょっと想像してみましょう。

子どもたちは、あなたという教師にどんな思いを寄せているのでしょうか？

親切で優しく、わたし大好き！

優しくな先生で助かったあ

一緒に遊んでくれる先生！楽しくやれそう！

何だか怖そう いつも怒った顔してるんだもん

笑顔で話しかけてくれる、感じのいい先生！

ぼくのこと、どう思っているのかな？

私って目立たないから、ちょっと心配

先生はボクに期待しているみたいだ

私の名前、先生覚えてくれたかな？

ぼくのこと、先生は気に入ってくれるかなあ

しあわせ



子どもの意識には、「教師に対する評価」と「自分に対する教師の評価」の2通りがあります。よい人間関係づくりは、お互いが相手について理解することから始まるのです。そこで <裏面へつづく>

その1

まずは教師自身，自分が変わる柔軟性を身につけたいものです。教師が率先して昨年度の自分を振り返り，「本年度はこうします！」と決意表明をして，子どもたちの前で努力を約束するのです。教師自身のそうした姿が，子どもにとってのよきモデルにもなります。日ごろから，子どもや保護者の評価的な声には，アンテナを高くしたいものです。

留意点

今年の自分はココが違うということ，具体的な行動レベルで子どもたちにアピールします。



今年はチャイムで授業を
ぴったり終わらせます！

パチパチパチパチ（拍手）

その2

子どもたちに，自分（という教師）について，よく知ってもらうためのPR活動も大事なことです。教師自身の自己紹介，つまり自己開示です。

「先生への質問コーナー」の時間を設けると，次から次へと質問が飛び出して，学級全体が盛り上がるかも知れません。また，プリントや交換ノートに「先生にききたいこと」を書いてもらい，個人的に答える方法もあります。前者は皆が同じ情報を共有できること，後者は個人的な親近感が増すというメリットがあります。

留意点

個人のプライバシーに触れる質問の中には，答えられない場合もあることを，前もってルールとして伝えておきます。「それは勘弁ネ」と，さわやかに伝え，子どもが「先生に嫌われた」と誤解しないよう配慮します。実施する時間や質問の数なども，事前に決めておくといよいでしょう。

その3

教師の自己開示としてぜひ行っていただきたいのは，「あなたのいいところはこんなところね。」といったその子のよさを言葉にして伝えることです。子どもにとって，「先生は，私のことをこう見てるんだ」ということが分かり，安心したりうれしくなったりします。家庭訪問など，個別に話す機会を生かせば，心の距離がグッと近づきます。

留意点

私たちは，一般に長所よりも短所の方が目につきやすいものです。しかし，短所も見方を変えれば，長所になってしまうことが少なくありません。できるだけプラスの見方をして，それを言葉にして伝えるようにしましょう。そういう見方をしてくれる教師に，親子そろって好感を持つに違いありません。あとはあなたのアイデア次第！

例) 気が散りやすい 好奇心旺盛 引っ込み思案 慎重
わがまま 意志がはっきりしている，自己主張ができる
授業中に歩く，じっとしてられない 行動的，エネルギッシュ



不登校対策は，今日の学校教育が抱える最も大きな課題の一つです。本市の不登校児童生徒数は，ここ数年横ばいの状態にありますが，その出現率は全国平均を上回る状況が続いています。そこで，新たな不登校を生まないために，また，現在不登校状態にある児童生徒の援助ニーズに，教師として適切に応えていくために，今回から具体的な支援の進め方に関するリーフレットをシリーズでお送りします。